

# 報告1資料3

令和元年10月28日

日本NPO学会 殿

申請者

住所 〒460-0002 名古屋市中区丸の内一丁目 14-12

グランビル 2B

団体名 特定非営利活動法人世界劇場会議名古屋

代表者・職氏名 理事長 下斗米 隆

☎ ( 052 ) 232 - 2270



## 後援名義使用許可について（申請）

下記の通り行事を開催いたしますので、日本NPO学会の後援名義使用許可を賜りたく申請いたします。よろしくお取り計らい願います。

1 行 事 名	世界劇場会議国際フォーラム 2020in 可児
2 行 事 の 目 的	“文化芸術の社会包摂”、その社会的価値をとらえなおす ～芸術の啓蒙ではなく、持続可能な社会のグランドデザインとして～（仮題）
3 主 催	（公財）可児市文化芸術振興財団 特定非営利活動法人世界劇場会議名古屋
4 他の後援依頼先 （予定）	岐阜県、可児市、（一財）地域創造、国際交流基金、大和日英基金、ブリティッシュ・カ ウンシル、（公社）日本芸能実演家団体協議会、（公社）企業メセナ協議会、（公社）全国公 立文化施設協会、（公社）劇場演出空間技術協会、文化経済学会＜日本＞、日本アートマ ネジメント学会、日本音楽芸術マネジメント学会、日本文化政策学会、（公財）舞台芸術 財団演劇人会議、（公社）日本建築家協会東海支部、愛知県舞台運営事業協同組合
5 会期又は日時	2020年1月30日（木）12:00～17:45 1月31日（金）10:00～16:00
6 会 場	岐阜県可児市文化創造センターala 小劇場（虹のホール）
7 入 場 料	一般 3,000円（資料代を含む） レセプション 4,000円
8 対 象 者	大学生・一般
16 内 容 等 （開催概要）	別 紙
10 前回の開催日	平成31年2月7日（木）、8日（金） 世界劇場会議国際フォーラム 2019 i n 可児

（添付書類）

- ・ 開催概要
- ・ 収支予算書

## 【英国人ゲスト】 「世界劇場会議 国際フォーラム 2020 in 可児」開催概要

● セーラ・ジー Sarah Gee

芸術文化組織コンサルティング会社インディーズ社代表取締役  
公益芸術文化組織の分野で25年の経験を持つ。英国で資金調達に関するコンサルティングを行う傍ら、ヨーロッパや日本、～芸術の啓蒙ではなく、持続可能な社会のグランドデザインとして～（仮題）などを務める。新しい形の資金調達に関心を持ち、バーミンガム大学と共同して寄付をする人の動機と観客のチケット購入行為との関連性についてのリサーチを行った。

RP 今年のメインタイトルも4年続けて「劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているか」になりました。究極はこれに尽きるとの思いがあります。一部の愛好者の趣味・嗜好を満足させるという一般的な認識が改まらないかぎり、社会に必要な施設であり、文化政策が「競い合い・奪い合う」社会で生きづらさを感じている現状を手当てするための最重要施策にはなれないと固く信じているからです。そして、第三次基本方針から7年の時間をかけて、文化政策は保護政策の2.0から社会的必要に基づく戦略的投資として「変化」という価値を求められる3.0へと大きく舵を切りました。府特殊法人芸術ビジネスパートナー協会北部の初代主任劇場音楽堂等と芸術団体関係者には、求められるのが芸術的価値のみならず社会的価値と経済的価値が等価並列となり大きな戸惑いが生じています。その「変化」を前にして不平を言うなら、その前に私たちこそ「変化」しなければなりません。ナール等で幅広く仕事をこなした後、ハレ管弦楽団の資金調達部長に再任。現在は今年大きく変わった「劇場音楽堂等機能強化推進事業」の要望書類を前にして、その変化をどのように捉えたのかを複数の関係者に証言してもらうことから始めて、株主資本主義の進捗で「企業メセナ」の失速が現実となりつつある激変する経済環境の変化、そして「競い合い・奪い合う」社会の激変の波間で、生きづらさと生きにくさを感じている人々にとって、劇場音楽堂等と文化芸術は何ができるのかを、皆さんと共に考える機会としたいと思います。そして、「社会的処方箋」の活動は教育NPO、福祉NPO、保健医療NPOを中心に燎原の炎のように広がりつつありますが、そのグランドデザインが、すべての社会政策を包括的に文化芸術の社会包摂機能で補完し完遂する「日本型社会的処方箋」であると、今回の世界劇場会議国際フォーラムでキックオフします。

● 中村美亜 Mia Nakamura

九州大学大学院芸術工学研究院准教授（芸術社会学）

主—ンシャル 催：（公財）可児市文化芸術振興財団 NPO 法人世界劇場会議名古屋

専門は芸術社会学。芸術活動が人をエンパワメントしたり、社会に変容を及ぼすプロセスや仕組みに関する研究。催、日：2020年1月30日（木）、31日（金）を行っている。ジェンダーやセクシュアリティに関する著作も多い。著書に『音楽をひらく—アート・ケア・文化のトリロジー』、『クィア・セクソロジー—性の思い場みを解き』所：可児市文化創造センターala 小劇場（虹のホール）

2019年 社会包摂ハンドブックを刊行。

内 容：劇場という総合体について議論する。

藤井昌彦 Masahiko テーマ「文化芸術の社会包摂」、その社会的価値をとらえなおす

東北大学医学部 臨床部～芸術の啓蒙ではなく、持続可能な社会のグランドデザインとして～（仮題）

1983年弘前大学医学部卒業。医学博士。山形県立河北病院などに勤務後、99年に医療法人東北医療福祉会理事長。加本 費：一般、日本認知症ケア学会3,000円 東北大学医学部臨床教授も務める。現在、仙台富沢病院総括理事長、NPレセプション調情動療法協会4,000円 年は、演劇の手法を用いて認知症患者の情動を刺激（感動させる）することによって、情動機能と認知機能を回復させる「演劇情動療法」の研究を進めている。

● 前田有作 Yasaku Maeda

劇団LGT主宰、有限会社ラック代表、日本演出者協会会員

NPO法人日本演劇情動療法協会理事長、演劇情動療法士

文学座付属演劇研究所第32期 こまつ座の90ステージに及ぶ旅公演や映画、TV、ラジオなど数多くの現場を踏む。97年地元仙台に戻り、1999年、翻訳劇を中心に上演する劇団LGTを旗揚げ。せんだい演劇工房10-



【英国人ゲスト】公演を上演。2008年 宮城県芸術選奨 新人賞を受賞。高校、専門学校、養成所講師、武

● セーラ・ジー Sarah Gee 行う。2013年より、仙台富沢病院において、佐々木英忠教授、藤井昌彦教授  
芸術文化組織コンサルティング会社インディゴ社業務執行役員にてセッションを続け成果を挙げている。

公益芸術文化組織の分野で25年の経験を持つ。英国で資金調達に関するコンサルティングを行う傍ら、ヨー  
ロッパや日本、中東などでブリティッシュカウンシル等が主催の人材育成や会議の統括などを務める。新しい  
形の資金調達に関心を持ち、バーミンガム大学と共同して寄付をする人の動機と観客のチケット購入行為と  
の関連性についてのリサーチを行った。」実行委員会代表。2004年より油袋本町プレーパークの運営に携わ  
RPS（ロイヤル・フィルハーモニック協会）、NCA（公的文化芸術補助金促進運動団体）等を含む組織の理事を  
務め、RPSでは鑑賞者開発賞の審査委員長を兼任する。子どもの居場所を点在化して子どもと家庭を伴走的に  
支援している。

● カス・ラッセル Kath Russell

ハレ管弦楽団 資金調達部 部長

コーナーハウスアーツセンターの資金調達責任者、政府特殊法人芸術ビジネスポンサー協会北部の初代主  
任、ハレ管弦楽団の資金調達部長等を歴任。ハレ管弦楽団在職中に荣誉ある英国ギネス資金調達者賞を1997  
年に受賞。ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、マンチェスター・ロイヤル・エクステン  
ジ劇場、リヴァプールビエンナーレ等で幅広く仕事をこなした後、ハレ管弦楽団の資金調達部長に再任。現在  
はウェストヨークシャープレイハウスの資金調達戦略とチームの監督役も務める。

【コーディネーター】

● パラオーケストラ 経営監督 （調整中）世界劇場会議名古屋理事長

The ParaOrchestra（パラオーケストラ）障害者によるオーケストラとして、2012年ロンドン・パラリンピッ  
クの際に創立。（WEBサイト：<http://paraorchestra.com/>）

坂崎裕二（公財）可児市文化芸術振興財団 顧客コミュニケーション室係長

【日本人ゲスト】

● 中村美亜 Mia Nakamura

九州大学大学院芸術工学研究院准教授（芸術社会学）大和日英基金、ブリティッシュ・カウンシル、  
ソーシャルアートラボ副ラボ長 協会、（公社）企業メセナ協議会、（公社）全国公立文化施設協会、

専門は芸術社会学。芸術活動が人をエンパワメントしたり、社会に変容を及ぼすプロセスや仕組みに関する研  
究、また、その知見を生かした文化政策に関する提案を行っている。ジェンダーやセクシュリティに関する著  
作も多い。著書に『音楽をひらくーアート・ケア・文化のトリロジー』、『クィア・セクソロジーー性の思い  
こみを解きほぐす』など。

2019年 社会包摂ハンドブックを刊行。劇場会議名古屋

〒460-0002

藤井昌彦 Masahiko Fujii 市中区丸の内一丁目14-12 グランビル2B TEL/FAX: 052-232-2270

東北大学医学部 臨床教授 仙台富沢病院理事長

Mail: [iten@itc-nasoya.com](mailto:iten@itc-nasoya.com)

1983年弘前大学医学部卒業。医学博士。山形県立河北病院などに勤務後、99年に医療法人東北医療福祉会理  
事長。日本老年医学会、日本認知症ケア学会に所属。東北大学医学部臨床教授も務める。現在、仙台富沢病院  
総括理事長、NPO法人日本演劇情動療法協会理事。近年は、演劇の手法を用いて認知症患者の情動を刺激（感  
動させる）することによって、情動機能と認知機能を回復させる「演劇情動療法」の研究を進めている。

● 前田有作 Yusaku Maeda

劇団LGT主宰、有限会社ラック代表、日本演出者協会会員

NPO法人日本演劇情動療法協会理事長、演劇情動療法士

文学座付属演劇研究所第32期 こまつ座の90 ステージに及ぶ旅公演や映画、TV、ラジオなど数多くの現場  
を踏む。97年地元仙台に戻り、1999年、翻訳劇を中心に上演する 劇団LGTを旗揚げ。せんだい演劇工房10-

BOXのこけら落とし公演を上演。2008年「宮城県芸術選奨 新人賞」を受賞。高校、専門学校、養成所講師、武将隊などでの演技指導、演出を行う。2013年より、仙台富沢病院において、佐々木英忠教授、藤井昌彦教授指導のもと、演劇情動療法の研究チームに参加。毎週、同病院にてセッションを続け成果を挙げている。

● 栗林知絵子 ～芸術の啓蒙ではなく、持続可能な社会のグランドデザインとして～（仮題）

NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長

「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー」実行委員会代表。2004年より池袋本町プレーパークの運営に携わり地域活動を始める。自他共に認める「おせっかいおばさん」として、地域の子どもの地域で見守り育てるために、プレーパーク、無料学習支援、子ども食堂など、子どもの居場所を点在化して子どもと家庭を伴走的に支援している。

● 衛紀生

可児市文化創造センター 館長兼劇場総監督

● 河合さつき

（公財）可児市文化芸術振興財団 事業制作課

下斗米隆 Takashi Shimotomai NPO法人世界劇場会議名古屋理事長

山出文男 Fumio Yamade NPO法人世界劇場会議名古屋副理事長

細井昭男 NPO法人世界劇場会議名古屋理事

坂崎裕二 （公財）可児市文化芸術振興財団 顧客コミュニケーション室係長

後援（予定）：

岐阜県、可児市、（一財）地域創造、国際交流基金、大和日英基金、ブリティッシュ・カウンシル、  
（公社）日本芸能実演家団体協議会、（公社）企業メセナ協議会、（公社）全国公立文化施設協会、  
（公社）劇場演出空間技術協会、文化経済学会＜日本＞、日本NPO学会、日本アートマネジメント学会、  
日本音楽芸術マネジメント学会、日本文化政策学会、（公財）舞台芸術財団演劇人会議、  
（公社）日本建築家協会東海支部、愛知県舞台運営事業協同組合

場 所：可児市文化創造センターala 小劇場（虹のホール）

事務局：特定非営利活動法人世界劇場会議名古屋

内 容：劇 団 460-0002 について議論する。

名古屋市中区丸の内一丁目14-12 グランビル2B

TEL/FAX：052-232-2270

Mail：[itcn@itc-nagoya.com](mailto:itcn@itc-nagoya.com)

参 加 費：一般 3,000円

レセプション 4,000円